

2022年度
貝塚公民館のあゆみ
～人と人、地域をつなぐ公民館～

貝塚市立中央公民館
貝塚市立浜手地区公民館
貝塚市立山手地区公民館

「2022年度貝塚公民館のあゆみ」発刊によせて

この度、貝塚公民館の1年間の活動を記録した「2022年度貝塚公民館のあゆみ」を発刊する運びとなりました。

今年度も新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」と表す）の流行が続く中での活動となりましたが、感染症対策に対する皆様のご理解とご協力により、感染を拡大させることなく1年間無事に中央・浜手地区・山手地区の三公民館の事業を実施できたことに感謝申し上げます。

昨年度は、コロナの感染拡大により「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発出されたことを受けて、貝塚公民館も臨時休館や開館時間短縮の措置を実施したため、公民館活動が大きく制限される状況となりました。しかしながら、今年度は依然としてコロナの流行は続いたものの、行動制限が徐々に緩和される社会全体の流れの中で公民館の活動も徐々に元に戻り、かつての賑わいが戻ってきました。

とりわけ、3年ぶりに開催した「中央公民館まつり」は、コロナ対策のためすべて館内での開催となりましたが、2年間活動や発表の機会が制限されてきた公民館利用者が久々の開催を大いに喜び、まつり当日は多くの来場者で賑わいました。

「人と人 地域を結ぶ公民館」を目標に掲げてきた貝塚公民館は、この間、コロナの流行により地域社会の交流やつながりが制限されてきた中で存在意義が増してきているのではないかと感じます。特に、高齢者や子育て中の親など、孤立しがちな人々にとってはなくてはならない場となっているのではないのでしょうか。

公民館での学びを通じて人と人がつながり、さらに学びの成果を地域社会に還元しようとする自主活動サークルの取り組みや、公民館クラブ・グループが学校や地域の福祉施設などに出向く「ほかでもがんばっているよ」などの活動も展開されました。公民館は地域のコミュニティを支え、人と人を結びつける場としてますます欠かせない存在となっています。

この「2022年度貝塚公民館のあゆみ」には、今年度、三公民館で実施された様々な活動の様子や参加者の皆様からの感想などが掲載されています。ぜひ、ご高覧いただき、ご意見やご感想をいただけると幸いです。

貝塚市立中央公民館長 甲 斐 裕 二

令和4年度 貝塚公民館 事業総括

はじめに

本年度の貝塚公民館は、日本国憲法・教育基本法及び社会教育法の理念はもとより、本市が策定している「第5次貝塚市総合計画」及び「貝塚市教育大綱」、また、教育委員会が定めた「令和4年度教育努力目標」を踏まえ、次の6点を事業展開の基本とした令和4年度貝塚公民館事業方針に基づき、中央・浜手地区・山手地区各公民館（以下、「各館」という）において重点目標を掲げ、多様な講座や事業を展開した。

また、本年度各館で取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめ総括した。

- ・新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）対策を含め、常に安全・安心を考えた事業に取り組む。
- ・市民が主体的に参画する講座・事業を実施し、市民の自主的な学びを支援する。
- ・公民館での学習や交流を通じて、地域コミュニティの活性化を図り、地域課題の解決につながるよう支援する。
- ・公民館が実施するあらゆる講座・事業を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の実現、及び、人権意識の醸成に努める。
- ・オンラインを活用した講座、地域出前講座の実施により、誰もが気軽に参加できる学習機会を提供し、新たな公民館利用者を開拓する。
- ・関係機関と連携を深め、公民館からの情報発信をさらに進める。

1. 公民館主催事業

① 青少年対象事業

<状況・成果>

「夏の子ども講座」「レッツ TRY」「+KOMINKAN」「新春あそびたい会」など様々な青少年対象の講座・事業を実施し、子どもの居場所づくりや異世代間交流の場づくりに努めた。特に、「鉄道模型 H0 ゲージ走行展示会」「将棋倶楽部」「百人一首」などの講座・事業は、趣味を介して大人と子どもが交流できる場となった。

貝塚少年少女合唱団が、できるだけ多くの発表の機会が持てるよう積極的に活動を支援した。

<課題>

子どもたちが参加したくなるような講座・事業の企画と、ICTを活用した広報、デジタルコンテンツの配信。

音楽やダンス、ボランティア活動など、青少年の自主的な活動に公民館が利用できることを広く知ってもらおう。

公民館クラブと学校のクラブ活動との交流。

② 子育て支援事業

<状況・成果>

「赤ちゃんルーム」「子育てサロン☆ほっとスペース」「子育てセミナー保育つき」など様々な工夫を凝らした講座を開催し、子育て中の親同士の交流の場を作るとともに、子育ての悩みや疑問、子育てに関する情報を共有することができた。また、「ハピサロン」や「はじめての人形劇」など父子・親子参加の事業にも取り組んだ。

講座の開催に際しては、「貝塚子育てネットワークの会」などの子育てグループや図書館、健康推進課、子育て支援課など関係課との連携を図ることができた。

<課題>

親子が安心して受講できる講座の開催方法の工夫。

目まぐるしく変化する子育て行政の中で、関係団体と連携しながら情報提供していく。

③ 成人対象事業

<状況・成果>

各館において高齢者を対象とした講座や全世界的な課題となっているSDGsに関連する講座、若年層、男性、勤労者など、日頃、公民館活動に馴染みが薄い市民の取込みを目指して、テーマや開催時間に工夫を凝らした「ダイエットボクササイズ」「かしこく夜活」「茶歌舞伎」「俺の公民館Ⅱ」などの講座を開催、三館の地域性、独自性を生かし、多様な市民を対象として、多様な学びの場、社会参加の場を提供してきた。

さらに、近年、「健康寿命」が注目される中、介護予防の取組みとして高齢介護課との共催による「ノルディックウォーキング」「スポーツ吹き矢」などの健康講座や認知症予防にもなる「スマホでイキイキライフ」などの講座を開催した。

<課題>

オンラインを活用し、リモートでも受講できる講座の拡充。

新規講座終了後のクラブ化を促進する自主学習の場の拡大。

若年層や勤労者が公民館活動に興味を持てる事業の企画と新たな参加者の発掘。

学びの成果を地域社会に還元することにより、社会貢献できるよう支援していく。

④ 共生課題事業

<状況・成果>

各館において、主に在住外国人を対象とする「日本語会話よみかき教室」や障がい者を対象とする「ふれあい料理」などの講座を実施し、市民のみならず、職員・ボランティアが、社会を構成する多様な人々に対する理解を深め、互いの人権を尊重し、つながりあいながら共に生きていくことの大切さについて学ぶことができた。

また、地域の新たな介護課題であるダブルケアラー、ヤングケアラーについて学ぶ講座を共生課題事業として開催した。

<課題>

講座に限らず、あらゆる機会を通じ多様性社会への理解を深める。

共生社会づくりに向け、地域社会にどのような課題があるのか把握し、講座に反映していく。

⑤ 文化振興事業

<状況・成果>

コロナのため、人数制限や事前申し込み制の導入など様々な影響を受けつつも、浜手地区・山手地区各公民館ではロビーやホールを活用し、市民が企画に参画する「ロビーコンサート」「アフタヌーンコンサート」を定期的で開催した。中央公民館では、視聴覚室、コスモシアターホールにおいて、毎年好評を得ている「クラシックコンサート」「ジャズライブ」「春一番コンサート」、市民参加による「ピアノリレー」などを開催し、音楽文化の発信に努めた。

また、中央公民館「元気がでるミニコンサート」、山手地区公民館「たまねぎ劇場」の開催、ロビーでの絵画や書道の作品展示など、文化活動に取り組むクラブ、市民グループの発表の機会を設けた。

<課題>

クラブ・市民グループ等の発表や広報の場となるよう、ロビーやホールを活用した公民館育成団体のコンサート・作品展示を引き続き支援する。

2. 人材養成事業

<状況・成果>

「日本語会話よみかき教室」および各館の料理・保育などのボランティアが、公民館主催事業などを通じて人とのつながりを大切にしながら活動を進めていく中で、新たなボランティアメンバーを獲得することができた。

<課題>

三館ボランティアの情報交換の場設定と主体的運営に対する支援。
新規加入ボランティア及び各事業協力ボランティアの研修機会の充実。
「まちのすぐれもの」登録者の講師活用。

3. 地域連携事業

<状況・成果>

「公民館まつり」は、公民館の活動を広く地域の人々に知ってもらう機会であるが、コロナのため2年続けて中止となっていた中央公民館では、館内のみであったが3年ぶりに開催することができた。

昨年、「クラブ発表会」として館内で展示と舞台発表のみ実施した浜手地区・山手地区公民館では、今年度は一般の来場者を迎えてまつりを開催することができた。

移動公民館や地域出前講座を町会・老人会など地域の団体からの要請に基づき実施しているが、コロナのため全体的に実施回数が減少した。

<課題>

「アフターコロナ」を見据えた「公民館まつり」の開催方法の検討。
移動公民館、地域出前講座の新規依頼の獲得。

4. 団体支援事業

<状況・成果>

「クラブ協議会」は公民館活動においては中心的な役割を果たしているが、各館とも高齢化が進み、加入クラブ数の減少や役員の担い手不足など退潮傾向が続いている。その中で「山手地区公民館活動協議会」は役員の輪番制を導入し、組織の活性化を図ろうとしている。

その他「貝塚ファミリー劇場」や「貝塚子育てネットワークの会」、各文化団体などについても、団体の運営やイベント開催の相談に乗るなどきめ細かい支援を行った。

<課題>

子育てサークルメンバーや高齢化に伴うクラブ員の減少に対し支援を行うとともに、新たな活動グループの育成を行う。

自主学习活動の支援と学習グループの育成。

5. 三館連携事業

<状況・成果>

今年度10周年を迎えた「しゃべり場★公民館」は4回の記念講座を企画（うち、1回は講師の事情により中止）、職員と公民館利用者がこの10年を振り返りつつ、これからの公民館について考える機会となった。

また、2月には「第11回貝塚公民館大会」（テーマ：共に学ぶ だれもが主役の公民館）を山手地区公民館ホールをメイン会場とし、浜手地区公民館をオンラインで結び開催した。大会は、パネルディスカッションを通じて、様々な立場の人々が公民館とかかわり、様々な活動が行われていることを参加者が知る機会となり、一人一人にとって公民館が大切な場であることを確認できた。

<課題>

三館連携事業により多くの市民の参加を得て、公民館活動を広く知ってもらう。